

林いさお通信

ブログ：<http://pikaichino.exblog.jp/> Tel 049-259-2228
 討議資料 No.94 マニフェスト自己検証 25年1月20日号林いさお後援会



★外部評価委員会の 評価結果は？

町長に就任して、早くも2年が経過いたしました。今年も昨年に続き、マニフェスト「未来開拓宣言」3つの約束、7つの挑戦、43項目にわたる宣言の進捗状況を自己検証しました。他自治体の首長や議会が採用している評価基準で採点したところ、**昨年は41%、2年目は58%の達成率でした。**

さて、隔年となる今年も第三者による評価を行います。今回の評価にあたっては、「林伊佐雄・三芳町長マニフェスト進捗状況外部評価委員会」(3名、以下「外部評価委員会」と称する)を組織し実施しました。外部評価委員会の構成員は、いずれもNPO法人地域政策イノベーションフォーラム(R

PIフォーラム)に所属しています。本日、評価結果の発表がありますので自己評価との比較をさせていただけたらと思います。

マニフェストは、**政権公約、選挙公約**ですが、国政においてマニフェストが守られず、マニフェストという言葉が色あせてしまった感があります。しかし、それは政権公約、選挙公約といわれるマニフェストに問題があるのではなく、それを**実行し説明責任を果たさない政治家**に問題があると言えます。

私は選挙公約としてのマニフェストを「**提示↓実行↓評価↓説明↓**」場合によって**改善**というマニフェストサイクルによって政治家としての責任を果たしていきたいと考えています。

マニフェストは町の未来ビジョンを定めた総合振興計画を前提とし

ながらも、政治家独自の政策です。従って、マニフェスト至上主義に陥らず、マニフェストの達成を目標としながらも、マニフェストを包含した町政全体の発展、進展を視野に入れた政策の実現が必要だと考えます。

町政全体の政策は、概ね3つに分類され、それぞれ評価をすることが大切だと考えます。一つが、総合振興計画に基づき実施されている既存の事務事業。二つが、マニフェスト。三つが、総合振興計画に基づく事務事業でもなく、マニフェストでもない、任期中の新たな政策的な取り組み。

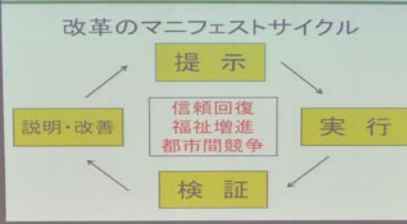
今回の検証は、あくまでも2番目のマニフェストのみの検証であることをご理解いただけたらと思います。

◆マニフェスト検証

今年度もマニフェストの自己検証を行いました。

マニフェストの評価基準は、一般的な施策、事業は評価基準1、条例等は評価基準2によって評価します。

43の宣言を各5点満点とし採点。7つの挑戦ごとに100点満点として達成率を計算しました。この評価基準を用いて、過去、小田原市長、厚木市長、横須賀市長、さいたま市議会民主



昨年のコピスみよしでの自己検証

党・無所属の会、自由民主党川口市議会議員など、さまざまな首長や議会(党派)も評価してきました。

評点	評価基準1 一般的な施策、事業
0点	施策・事業に着手していない段階、かつ予算等の措置を講じていない段階
1点	施策・事業に着手した段階、または予算等の措置を講じた段階
2点	施策・事業の4分の1程度を達成したと判断される段階
3点	施策・事業について、2分の1程度を達成したと判断される段階
4点	施策・事業について、4分の3程度を達成したと判断される段階
5点	施策・事業をほぼ達成したと判断される段階

評点	評価基準2 条例等
0点	全く検討していない段階
1点	検討のための組織(検討委員会等)を設置し、検討を行っている段階
2点	条例素案を公表した段階・パブリックコメント手続を実施している段階
3点	条例案を議会に提出した段階(否決された場合を含む)
4点	条例案が議会で可決された段階(軽微な修正があった場合も含む)
5点	条例が施行された段階(条例施行)